

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

| | |
|-------------|--|
| 課題名 | ナノ構造化燃料電池用材料研究 |
| 研究責任者の所属・氏名 | エコマテリアル研究センター 西村 睦 |
| 【項目】 | 評価結果 |
| コメント及びアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・基本概念を追求すると同時に燃料電池に関連する材料も作製するというのは良い計画である。 ・本プロジェクトは商業ベースの燃料電池開発者に役立つかもしれない新しい材料を作り出す可能性がある。これらの材料の開発において、NIMSはナノテクノロジーの基礎原理の研究を行い、それらの成果を特定の材料に応用することにより、燃料電池に関連した一定の場所においてリーダーシップの位置を占めると思われる。 ・チャレンジングな領域における非常によい研究である。重要な飛躍的発展の本当のチャンスである。 ・NIMSの外における研究協力がよく示されている。 ・当該領域における問題点がはっきりと理解されている。広範囲にわたるプロジェクトである。 ・重要な分野であるが、現状のポテンシャルは高いとは言えず、強化して長期的に取り組む事を期待する。 ・この成果は非常に満足のいくものではあるが、あまり創造的ではない。燃料電池の世界的な競争はまったく熾烈で、この領域で少なくとも30の主要なグループが活動している。本プロジェクトは現在世界一流とはいえないし、また今後世界一流になる可能性は小さいと思われる。 ・ナノマテリアルの研究は燃料電池に重要な役割を果たす。本研究はまったく新規だが、世界中でいろいろなグループが組織されている。本研究は複雑すぎて、グループの拡大や国際共同研究なしには飛躍的発展は期待できない。 ・燃料電池そのものの開発までは必要ない。シーズ提供かニーズ対応かの立場を明確にすべきである。 |
| 評価点 | A, S-, A, S-, A+, A, A, A+, A, S- |
| 総合評価点※ | A |

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。